

洞爺湖町誕生 20周年記念誌



洞爺湖町誕生20周年を迎えるにあたって



洞爺湖町 町長
下道 英明

洞爺湖町誕生20周年の記念すべき年を町民の皆さまと迎えられますこと大変うれしく思いますとともに、これまでの町政へのご理解とご協力に対し、心から感謝申し上げます。

謝申し上げます。

この20年を振り返ると、人口減少・少子高齢化に歯止めがかからず、加えて早期健全化計画の策定と実践、新型コロナ問題など厳しい状況が続いた中、皆さまには我慢強く対応、協力いただきました。

一方、「洞爺湖有珠山ジオパーク」の世界ジオパーク登録と「入江貝塚・高砂貝塚」が「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産として世界文化遺産に登録されたことは、大きな喜びでした。また、昨年は箱根町姉妹提携60周年、本年は三豊市友好提携50周年を迎え、両市町との強い絆を確認し、様々な多くの応援をいただきました。

今を生きる私たちの使命は、自然・産業・文化にわたる素晴らしい地域資源を将来に引き継いでいくことです。観光・農業・漁業・福祉分野などの各産業基盤の振興に注力し、子育て支援にも積極的に取り組み、持続可能な町づくりを進めてまいります。

2000年有珠山噴火から25年が経過し、様々な災害が全国各地で発生している現状を鑑み、一層の防災・減災体制づくりに尽力してまいります。

このたび20年という節目に記念誌を発行し、旧虻田町、旧洞爺村それぞれの先人が幾多の苦難を乗り越えて創り上げてきた郷土を振り返り、さらなる「洞爺湖町民の誇り」の醸成につながることを切に願っております。

洞爺湖町議会 議長
大西 智



2006年3月に洞爺湖町が誕生し、本年度で20年の節目を迎えます。この20年間、両町村が協力し助け合い、互いの文化を尊重しながら地域の活性化に努め、一步一步歴史を刻んでまいりました。今日まで当町の発展にご尽力賜りました多くの皆さまに対しまして、心から敬意と感謝を申し上げます。

2008年の「北海道洞爺湖サミット」の開催をはじめ、2009年の「洞爺湖有珠山世界ジオパーク」の認定、また2021年には「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録など、世界に誇れる町の財産を活用し「新町建設計画」や「まちづくり総合計画」を軸としながら、町と歩調を合わせ、地域の活性化に取り組んできたところであります。

一方、2009年に財政健全化団体としての指定を受け、2011年の脱却までの間、建設事業の抑制をはじめ、職員給与や議員報酬の削減など、町民の皆さまのご理解をいただきながら進めてまいりました。

また、2020年1月からの約3年半、全国に蔓延したコロナウイルスにより、就労形態の変化やデジタル化など大きな変革がもたらされました。少子高齢化や人口減少が進む厳しい環境の中、経済情勢の動向も視野に時代の情勢を的確に捉えながら、次世代と共に安心して住み続けられる希望のあるまちづくりを進めるため、議会としても研さんを重ねます。

皆さまの声を町政に反映できるよう努めてまいりますので、これからもご支援、ご協力くださいますようお願い申し上げます、20周年記念誌発刊のお祝いのあいさつといたします。

新町の誕生まで

開基と分村

寛政12年(1800年)	和人牧士・村田卯五郎の移住をもって旧虻田町の開基とする。
明治20年(1887年)	三橋政之率いる香川県からの集団移住をもって旧洞爺村の開基とする。
明治15年(1882年)	虻田郡各村戸長役場設置。
大正9年(1920年)	洞爺村が虻田村から分村。
昭和13年(1938年)	虻田町誕生(一級町村制指定)。

合併までの経緯

平成15年(2003年)	虻田・豊浦・洞爺3町村が3月、西胆振3町村合併問題研究会を発足。10月には豊浦町・虻田町・洞爺村任意合併協議会発足。
平成16年(2004年)	豊浦町・虻田町・洞爺村法定合併協議会が6月、発足。
平成17年(2005年)	豊浦町、虻田町で2月27日、合併の是非を問う住民投票実施。虻田町では賛成、豊浦町では反対が多数となり、豊浦町が合併協議会を離脱する。3月には洞爺村が合併に関する住民意志確認調査を実施し、賛成が多数となる。
平成18年(2006年)	3月27日、虻田町と洞爺村が合併調印し、洞爺湖町誕生(庁舎は平成15年建設の旧虻田町庁舎)。



1. 第1次香川移住団(明治21年)
2. 長輪線開通(昭和3年9月10日)
3. 床丹(洞爺湖)温泉全景(昭和初期)
4. 三樹亭にて(昭和初期)
5. 一級町村施行第1回村会記念(昭和13年)

目次

01	洞爺湖町誕生 20 周年を迎えるにあたって	29	洞爺湖町の中学生在が伝えたいコト
02	新町の誕生まで		未来へのメッセージ
03	洞爺湖町町民憲章	33	地域おこし協力隊と考える
04	洞爺湖町のデータ		このまちの未来
05	洞爺湖町 20 年の軌跡	37	この町とともに
25	みんなの未来図	42	他市町との交流



洞爺湖町民憲章

わたしたちは、美しい洞爺湖、みのり多き大地、さち豊かな内浦湾にいだかれた洞爺湖町の町民です。
恵まれた環境と先人の偉業を受けつぎ、洞爺湖町民としての誇りをもち、豊かで美しくしあわせな未来を築きます。

豊かな自然と郷土を愛し 美しいまちをつくります

地域に根ざした産業を生み育て 活力あるまちをつくります

人々が輝き交流と文化が香る 生涯学習のまちをつくります

健やかな心と体を育て 生きがいのあるまちをつくります

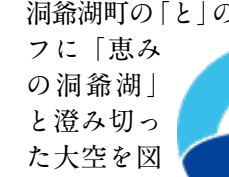
人権を大切にし 安全で平和なまちをつくります

町の花



すみれ つつじ さくら ななかまど

町の木



さくら

洞爺湖町章

洞爺湖町の「と」の字をモチーフに「恵みの洞爺湖」と澄み切った大空を図案化。



Toyako
Town
Data

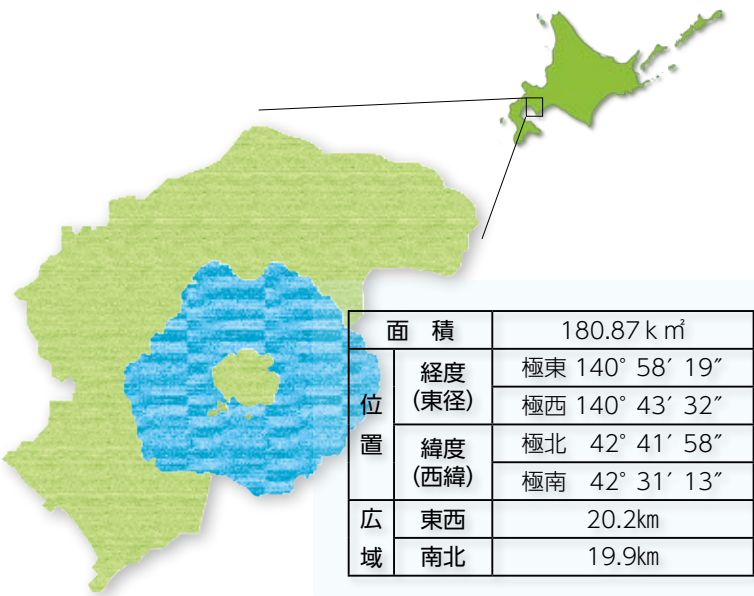
洞爺湖町のデータ

1. 町名の由来

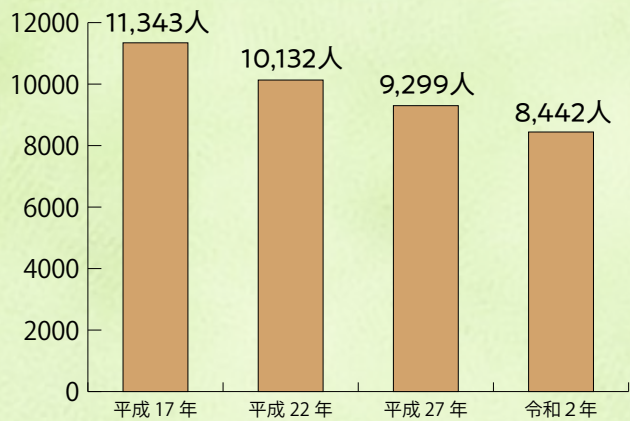
虻田町、洞爺村の合併に先立ち、町名の公募を実施。1034点が集まり、合併協議会での協議を経て「洞爺湖町」に決定しました。

2. 「洞爺」の語源

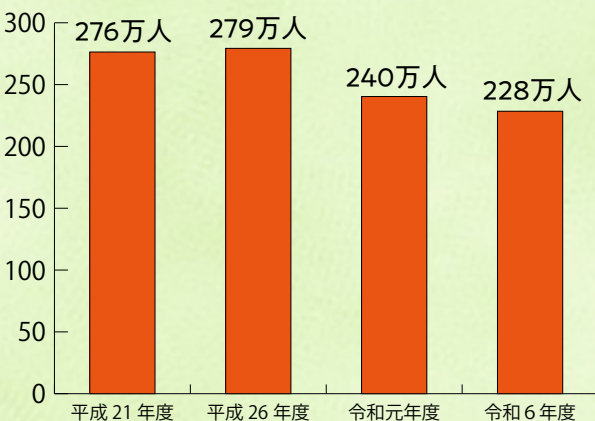
アイヌ語で「湖岸」を意味します。「トー」は沼、湖、「ヤ」は岸を示しています。



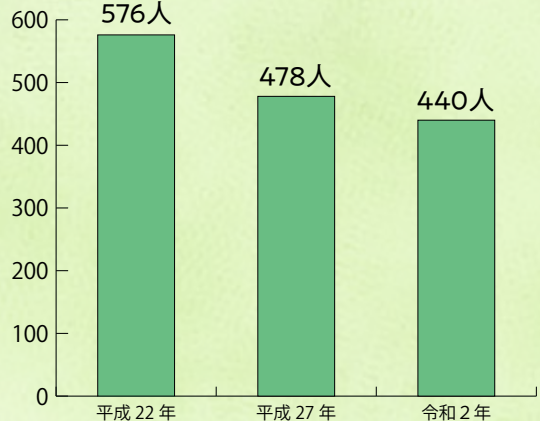
① 人口（国勢調査）



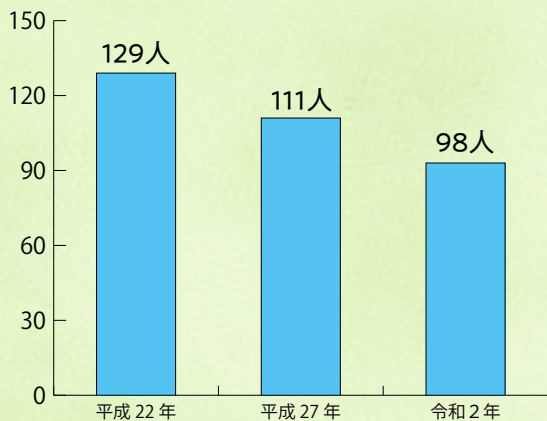
② 観光入込客数（資料：観光振興課）



③ 農業従事者数（国勢調査）



④ 漁業従事者数（国勢調査）



平成19年

2007

踏み出す未来への一歩



3月 花和小学校が閉校

1903年（明治36年）に仁成香尋常小学校小花井分教所として開校した花和小学校は、735人の卒業生を送り出し、103年の歴史を終えた。

3月 新洞爺総合支所オープン

総合支所には新しくなった総合センターが併設され、住民の利便性の向上が図られた。

3月 国道230号新ルート開通

有珠山噴火で寸断された国道230号の新ルートは洞爺湖温泉街の月浦寄りに開通し、全線の約8割は2本のトンネルで構成。

7月 三豊市と友好都市提携

1975年（昭和50年）に姉妹町村提携を交わした旧洞爺村と香川県の旧財田町は、両町村それぞれの合併に伴って友好都市提携を締結した。

【その他のできごと】

- ・合併後初の町議会選挙は2選挙区で実施
- ・洞爺湖ビジターセンター、火山科学館オープン
- ・洞爺湖温泉街湖畔に噴水広場オープン
- ・移設の虻田洞爺湖インターチェンジ開通

▼写真説明

1. 洞爺総合支所除幕式
2. 国道230号新ルート開通式
3. 三豊市友好都市提携調印式
4. 花和小学校閉校式

$$\frac{1}{2} \frac{3}{4}$$


平成18年

2006

結びついた湖海と火山と緑の大地
洞爺湖町、誕生

3月 洞爺湖町誕生

1920年（大正9年）の分村から86年を経て再びひとつの町に合併。

4月 とうや小学校開校

洞爺・大原・香川・成香の4小学校を統合して、新たな「とうや小学校」が誕生。

6月 合併後初の洞爺産業まつり開催

会場の湖畔広場は1万人を超える来場者でにぎわい、とうや牛の焼肉や様々なアトラクションが行われた。

6月 洞爺湖町開町式典

開町式典には姉妹町の箱根町から山口昇士町長らが出席し、姉妹都市宣誓書が交わされた。

【その他のできごと】

- ・初代洞爺湖町長に長崎良夫氏が当選
- ・とうや湖クリーン農業協議会がコープさっぽろ賞会長賞受賞
- ・岡田屋「白いおしろこ」が中小企業長官賞受賞

▼写真説明

1. 洞爺湖町役場除幕式
2. 町村合併後に初めて行われた産業まつり
3. とうや小学校開校式
4. 洞爺湖町開町式

$$\frac{1}{2} \frac{3}{4}$$


洞爺湖有珠山 世界ジオパーク誕生



平成20年

2008

郷里の自然がつなぐ世界の絆 洞爺湖サミット開催



1月 雪蔵貯蔵施設が完成

雪熱で農産物保管庫を低温に保つシステムは省電力と二酸化炭素排出抑制の効果が、地球温暖化対策に貢献。

4月 洞爺湖芸術館がオープン

旧洞爺村庁舎を改修した芸術館には、洞爺村国際彫刻ビエンナーレの入賞作品や、彫刻家・砂澤ビッキ氏の作品、写真家・並河萬里氏の作品が常時展示。

4月 道の駅とうや湖がオープン

町内2か所目の道の駅として開業した「とうや湖」は、地元の農産物を中心に地場産品が多数並び、休日には大勢の観光客らでにぎわう。

7月 北海道洞爺湖サミット開催

先進国首脳会議（G8サミット）はザ・ウィンザーホテル洞爺を主会場に開催。町も町民会議を中心に交流とイベントを実施。

【その他のできごと】

- ・サミット100日前イベント開催
- ・サミット50日前カウントダウンイベント開催

▼写真説明

- | | |
|---------------------|-----|
| 1. イギリス大使と交流する長崎元町長 | |
| 2. 完成した雪蔵貯蔵施設 | 1/2 |
| 3. 道の駅とうや湖 | 3/3 |
| 4. 洞爺湖芸術館 | 4/4 |



7月 縄文シティサミット開催

「縄文人の精神文化をまちづくりにつなげよう」と縄文都市連絡協議会加盟自治体が持ち回りで実施しているサミット。洞爺湖町では初開催。

7月 洞爺地区に準都市計画導入

無秩序な宅地等の開発を抑え、周辺環境の保全に努めるため、洞爺地区の一部に準都市計画を導入。

8月 洞爺湖有珠山世界ジオパーク決定

西胆振3市町にまたがる洞爺湖有珠山ジオパークが長崎県・島原半島、新潟県・糸魚川とともに国内第1号の世界ジオパーク認定を受ける。

12月 財政健全化計画を策定

平成20年度決算において、実質公債比率が国が定める健全化基準を超えたため、財政健全化計画を策定する。

【その他のできごと】

- ・新賢範さん(虻田中)と横山駿太さん(虻田高校)がスキー全国大会で活躍
- ・JAとうや湖の雪蔵貯蔵施設が経済産業省「新エネ百選」
- ・酪農学園大学と地域総合交流協定を締結

▼写真説明

- | | |
|--------------------|-----|
| 1. 世界ジオパーク決定を喜ぶ関係者 | 1/2 |
| 2. 縄文シティサミット | 2/2 |
| 3. 洞爺湖町財政健全化計画書 | 3/3 |

平成21年

2009





- 4月 町長選挙で真屋氏が当選
任期満了に伴う洞爺湖町長選挙には2人が立候補。前町教育長の真屋敏春氏が初当選。第2代洞爺湖町長に就任。
- 6月 第1回TOYAKOマンガ・アニメフェスタ開催
洞爺湖温泉誕生100年記念事業の一つとして企画。現在では参加者が2日間で7万人を超える洞爺湖の一大イベントとなる。
- 7月 洞爺湖温泉誕生100年感謝祭
24日から2日間開催された感謝祭のセレモニーには高橋はるみ知事も参加。地元の中学生らも吹奏楽や太鼓演奏などでイベントを盛り上げた。
- 10月 2000年噴火後、初の4市町合同防災訓練
有珠山周辺4市町合同の防災訓練を豊浦ふるさとドームで開催。自衛隊、気象台など16機関と住民ら約300人が参加。



- 【その他のできごと】
- ・洞爺湖温泉誕生100年記念式典
 - ・有珠山噴火メモリアル10年イベント開催
 - ・リフォーム助成事業開始
 - ・西胆振定住自立圏形成協定締結

▼写真説明	
1. 洞爺湖温泉100年感謝祭	1/2
2. 第1回アニフェス	3/4
3. 4市町合同防災訓練	
4. 初登庁する真屋町長	

- 3月 東日本大震災が発生
地震と津波は東日本一帯に多数の犠牲者と大きな被害をもたらした。町は被災地支援に向け見舞金、支援物資、募金活動、職員派遣などを実施。
- 7月 洞爺高校の家庭クラブが全国入賞
道代表として山梨県で行われた全国大会に出場し「ホームプロジェクト」「学校家庭クラブ活動」2部門の発表で3位に相当する山梨県教育委員会賞を受賞。
- 9月 日本ジオパーク全国大会
3日間開催された大会には延べ約2千人が参加。「ジオツーリズムを通じた観光地づくり」をテーマにシンポジウム、分科会やジオツアーなどを通して、観光だけでなく防災との関わりも学んだ。
- 10月 有珠山総合防災訓練
有珠山噴火を想定し住民避難、情報伝達、救出訓練などの手順を確認。だて歴史の杜と壮瞥温泉の2会場に3市町の住民など約400人が参加。



- 【その他のできごと】
- ・洞爺湖町災害時要援護者避難支援計画を策定
 - ・西胆振6市町が防災協定締結
 - ・北海道小学生陸上競技大会ソフトボール投で橋本吏功さん（虻田小）が優勝

▼写真説明	
1. 有珠山総合防災訓練	1/2
2. 東日本大震災の救援物資を準備する職員	3/4
3. 全国ジオパーク大会のジオツアー	
4. 入賞を町長に報告する洞爺高校家庭クラブ	

[三豊市・洞爺湖町] 災害時における相互応援協定調印式

【箱根町・洞爺湖町】
大規模災害時等の相互応援協まちとまちの絆でつくる
新たな防災体制

平成24年

2012

- 4月 三豊市と災害時応援協定
東日本大震災による広域大規模災害を踏まえ、友好都市三豊市と災害時の相互応援協定を締結。協定書には職員派遣など7項目を明記。
- 6月 箱根町とも災害時応援協定
大規模災害時の相互応援協定を姉妹町の箱根町とも締結。両町の絆が一層強まる体制となった。
- 11月 第1回大秋獲祭を開催
町内各産業団体が共催し、洞爺湖温泉特設会場で開かれた。特産品販売、バーベキュー、サケのつかみ取りなど秋の味覚を満喫した。
- 11月 津波ハザードマップ全戸配布
北海道が6月に示した津波浸水予測図を基に町内の津波ハザードマップを作成し、町内全戸に配布。浸水区域や避難所が示されている。

【その他のできごと】

- ・映画「しあわせのパン」先行試写会
- ・第1回町民感謝祭開催
- ・塩野谷孝二さん(花和)が内閣総理大臣賞(畜産部門)受賞

▼写真説明

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 香川県三豊市と協定締結 | 1 2 |
| 2. 神奈川県箱根町と協定締結 | 3 |
| 3. 津波ハザードマップの住民説明会 | 4 |
| 4. 大秋獲祭で鮭を捕まえる子ども | |

平成25年

2013

鉄人集結

アイアンマン・ジャパン開催

- 5月 とうや音頭保存会設立
旧洞爺村の開基90周年を記念して昭和51年に作られた都はるみさんが歌うとうや音頭。後世に伝えていきたいと保存会が結成。
- 8月 初のトライアスロン大会
北海道では初開催のトライアスロン大会「アイアンマン・ジャパン」に国内外から約1400人が参加。水泳・自転車・マラソンの計226.2キロに挑戦した。
- 10月 虻田中学校の教室でPCB飛散
虻田中学校で授業中の教室の蛍光灯が破損しPCBが飛散し、生徒1人が病院を受診。その後の健康診断では生徒、教職員に健康被害はなかった。
- 11月 北海道FCと交流協定
コンサドーレ札幌を運営する北海道フットボールクラブとスポーツ観光の活性化をめざし、相互交流協定を締結。

【その他のできごと】

- ・国道230号道路整備促進期成会設立
- ・洞爺湖有珠山ジオパークが世界ジオパークに再認定
- ・入江地区で2つのメガソーラー発電施設が稼働

▼写真説明

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. とうや音頭のレコード | 1 |
| 2. アイアンマン・ジャパン | 2 3 |
| 3. 北海道FCと協定締結 | 4 |
| 4. 国道230号道路整備促進期成会 | |



平成26年

2014

姉妹都市と展望する 次の50年

3月 入江貝塚出土品が道文化財に選定

入江貝塚の発掘調査で出土した約14万点のうち、シカの角で作られた釣針やもり頭、イノシシの牙、イモガイなどで作られた装飾品など134点が指定された。

7月 箱根町との姉妹都市提携50周年

「芦ノ湖と富士山」「洞爺湖と羊蹄山」の景観が似ていることから昭和39年に姉妹提携してから50年にわたり友情を育んできた。

8月 中学生が避難所開設体験

虻田中、洞爺中、洞爺湖温泉中の2年生が虻田小学校体育館で避難所設営や運営方法について学んだ。

12月 地熱利用施設が完成

金比羅火口付近のボーリングで約100℃の温泉が汲み上げられたことから、バイナリー発電、温泉街への供給、温泉卵などに施設を活用している。

【その他のできごと】

- ・真屋敏春氏が町長に再選（2期目）
- ・地域交流センター（さわやか別館）改修
- ・町道成香5号線伏見橋で崩落事故
- ・本町地区水道水の水源を洞爺湖に切り替え

▼写真説明

- | | |
|-------------------|---|
| 1. 姉妹都市提携50周年記念式典 | 1 |
| 2. 道文化財に指定された出土品 | 2 |
| 3. 中学生の避難所開設体験 | 3 |
| 4. 完成した地熱利用施設 | 4 |

平成27年

2015

「応援してます箱根」 ツアー開催

1月 温泉街に無料 Wi-Fi 整備

洞爺湖を訪れる観光客らに気軽にインターネットを利用してもらうと、中心街の湖畔遊歩道などに延べ約2.2キロに無料の Wi-Fi を整備。

4月 FM放送局 wi-radio (ワイラジオ) 開局

西胆振4市町協同で開局したワイラジオは防災・災害情報をメインとしながら、地域住民に身近な情報を提供。

9月 箱根応援ツアーに112人

箱根町の観光スポット大涌谷付近で続く火山活動が観光に打撃を与えたため、町民ら112人が「応援してます箱根」ロゴの T シャツを着て応援ツアーを実施。

11月 洞爺高校が閉校式典

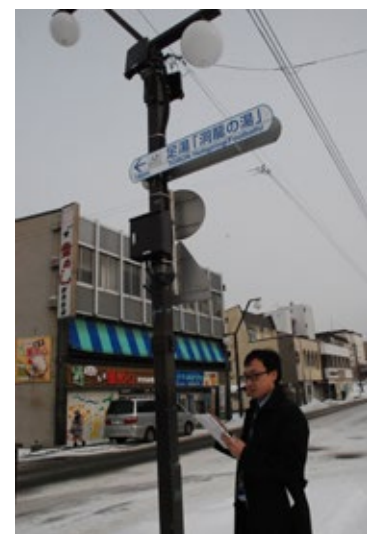
地域に根ざし、特色ある教育を続けてきた町立洞爺高校が、施設の老朽化や入学者の減少のため64年の歴史に幕を下ろす。

【その他のできごと】

- ・町内4カ所に電気自動車用急速充電器を整備
- ・虻田郷土資料館がリニューアル
- ・洞爺湖マラソン出場登録が最多の7,897人
- ・防災訓練に住民ら330人が参加

▼写真説明

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1. 洞爺高校閉校式典 | 1 |
| 2. 箱根応援ツアー | 2 |
| 3. 街路灯に設置された Wi-Fi 設備 | 3 4 |
| 4. ワイラジオでリハーサル | |





迎えた合併10周年 刻み続ける町の足跡

- 2月 洞爺湖温泉中学校が閉校
虻田中学校への統合が決まり、69年の歴史に幕を下ろす洞爺湖温泉中学校の閉校記念式典が行われた。
- 3月 新消防洞爺出張所が完成
老朽化に伴い新築された庁舎は洞爺地区の防災機能の拠点となった。
- 3月 洞爺湖町誕生10周年
平成18年3月27日に旧洞爺村と旧虻田町が合併して10年を迎えた。洞爺湖文化センターで約450人が参加して節目を祝った。
- 7月 洞爺湖温泉開湯100年に感謝
洞爺湖温泉に初の温泉旅館「竜湖館」が開業してから100年にあたり、開湯100年感謝祭として様々なイベントが開かれた。

平成28年

2016

【その他のできごと】

- ・新賢範さん（虻田中出身）がスキークワールドカップ大回転に出場
- ・洞爺湖消防団に女性分団が誕生
- ・名誉町民に長崎良夫さんと朝倉英隆さん

▼写真説明

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1. 合併10周年記念式典 | 1 |
| 2. 消防新洞爺出張所 | 2 3 4 |
| 3. 開湯100年感謝祭 | |
| 4. 洞爺湖温泉中閉校記念式典 | |



新しい道に明るい声 臨港道路開通

- 4月 月浦運動公園「ポロモイスタジアム」がオープン
旧月浦小学校跡地に人工芝の「ポロモイスタジアム」が完成。公式競技用1面、ジュニア用のサッカーコート2面を確保する。
- 8月 北海道トライアスロン大会
アイアンマン・ジャパン北海道大会の休止を受け、新たに北海道トライアスロン大会が開催。初回は271人が出場した。
- 9月 青葉山道にパワースポット
風水スポットとして人気の虻田神社の裏山中腹に龍の卵をイメージしたモニュメントを設置。
- 11月 大磯漁港の臨港道路が完成
大磯地区に整備された虻田漁港大磯分區に海沿いに接続する臨港道路が完成し、記念ウォークが行われた。



平成29年

2017

【その他のできごと】

- ・洞爺湖消防団が日本消防協会特別表彰受賞
- ・洞爺の2小中に初のコミュニティスクール設置
- ・崩落した町道伏見橋の復旧工事が終了
- ・胆振西部合同の噴火総合防災訓練

▼写真説明

- | | |
|------------------|---|
| 1. 臨港道路記念ウォーク | 2 |
| 2. 北海道トライアスロン大会 | 3 |
| 3. 完成したポロモイスタジアム | 4 |
| 4. 青葉山道のモニュメント | |



平成30年

2018 食と遊びの充実目指して

3月 地域食堂ほのぼのオープン

子どもや高齢者など誰もが気軽に食事や交流できる地域食堂がオープン。当初は地域交流センターに開設された。

5月 馬鈴薯集出荷貯蔵施設が完成

とうや湖農協が整備した施設は原料を1280トン、製品を約65トン貯蔵可能。また、野菜集出荷センターにも新しい選別機を導入した。

8月 クライミングウォールが完成

あぶたふれ合いセンターロビーに完成したクライミングウォールは高さ、幅とも約6メートルで洞爺湖クライミングクラブが運営。

12月 箱根町から応援ツアー

9月の胆振東部地震の影響で落ち込んだ洞爺湖観光を応援しようと箱根町から108人が来町。

【その他のできごと】

- ・真屋敏春氏が町長3選
- ・TOYAKO マンガアニメフェスタに過去最高の7万3千人来場
- ・毛利郁也さん（洞爺中3年）が少年の主張全道大会で最優秀賞
- ・胆振東部地震が発生

▼写真説明

1. 地域食堂ほのぼの
2. 洞爺湖町応援ツアー
3. 完成したクライミングウォール
4. 馬鈴薯集出荷施設



平成31年・令和元年

2019

高校跡地を 子育ての拠点に

4月 新しい洞爺保育所が開所

洞爺保育所とさくら保育所を統合した新しい洞爺保育所が旧洞爺高校跡地に完成。0歳児保育も可能になった。

4月 洞爺高校メモリアル公園が完成

閉校した洞爺高校の歴史を後世に伝えようと、同校跡地に誰もが遊べる公園として整備。

9月 支笏洞爺国立公園が70周年

昭和24年に14番目の国立公園として制定されてから70年の節目を迎え、シンポジウムが町内で開催。

10月 有珠山の火山活動の現状

有珠山の最新の研究成果と火山活動の現状について、専門家4人による一般向けの講演会が役場で開かれた。

【その他のできごと】

- ・町議会選挙（定数が14人から12人に削減）
- ・「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産推薦候補に選定
- ・洞爺湖ロータリークラブが設立50周年
- ・消防洞爺出張所に新しい消防車配備
- ・5月1日、元号が「平成」から「令和」に改元

▼写真説明

1. 完成した洞爺メモリアル公園
2. 新しくなった洞爺保育所
3. 支笏洞爺国立公園70周年シンポジウム
4. 有珠山火山活動の講演会





令和2年

2020 感染症の混乱収束に全力

- 2月 新型コロナウイルス対策本部**
北海道内でも感染者が確認されて、町長を本部長とする対策本部を設置し、全庁挙げての対応を図った。
- 5月 コロナ感染防止取り組み宣言**
北海道の移動自粛解除宣言を受け、町と町内経済団体5団体は、観光客に安心を届けようと感染防止取り組み宣言を行った。
- 7月 人参洗浄選別機を導入**
とうや湖農協が新たに導入した設備は1日当たり72tのニンジン洗浄・選別・箱詰めでき、作業が大幅に効率化された。
- 10月 ふるさと応援団洞爺湖ツアー**
道内外に在住するふるさと応援団員を対象とした洞爺湖満喫ツアーには17人が参加。2泊3日の日程で洞爺湖町の魅力を再発見した。

【その他のできごと】

- ・入湯税を150円から300円に引き上げ
- ・洞爺湖有珠山ジオパークが世界ジオパークに再認定
- ・洞爺湖温泉誕生100年タイムカプセル開封式
- ・1月、新型コロナウイルス国内初の感染者を確認

▼写真説明

- | | | |
|--------------------------|---|---|
| 1. コロナ感染防止取り組み宣言 | 1 | 3 |
| 2. 人参洗浄選別機 | 2 | 4 |
| 3. 洞爺湖温泉誕生100年タイムカプセル開封式 | | |
| 4. ふるさと応援団洞爺湖ツアー | | |



令和3年

2021 入江・高砂貝塚 世界遺産に認定

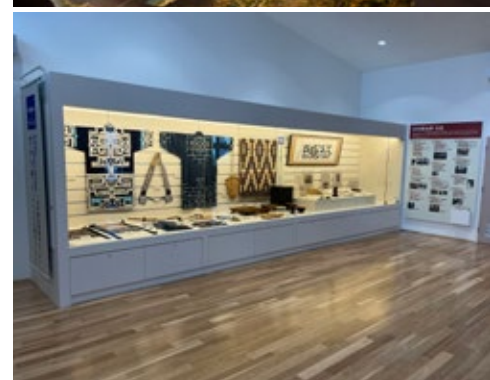
- 4月 ウトゥラノがオープン**
アイヌ文化、アイヌの歴史を伝承するアイヌ民族共生拠点施設として整備。ウトゥラノは「共に、一緒に」を意味するアイヌ語。
- 4月 中島・湖の森博物館がオープン**
老朽化していた洞爺湖森林博物館に代わり、洞爺湖の豊かな自然の歴史を伝える新しい施設。名称は和泉莉音さん（当時とうや小学校5年）の案を採用。
- 7月 入江・高砂貝塚が世界遺産に決定**
長年の要望活動が実り、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録。遺跡群は北海道、青森、岩手、秋田の4道県、17遺跡で構成。
- 8月 洞爺駅構内にエレベーター設置**
JR洞爺駅ホームの1番線と2・3番線を結ぶ連絡橋には階段しかなかったため、設置により高齢者や観光客らの利便性が向上。

【その他のできごと】

- ・「さぼーとステーションゆうあい」オープン
- ・新型コロナワクチンの町民接種開始
- ・洞爺湖町景観計画を策定
- ・入江・高砂貝塚館がリニューアルオープン

▼写真説明

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 入江・高砂貝塚が世界遺産に決定 | 1 |
| 2. 中島・湖の森博物館 | 2 |
| 3. オープンしたウトゥラノ | 3 |
| 4. 洞爺駅のエレベーター | 4 |





令和4年
2022

コロナ禍でもつなげる まちづくり



- 2月 西胆振で大雪
21日から22日にかけて記録的な大雪を記録。除雪が追いつかずJRや路線バスが運休する事態となった。また、農業施設などにも多額の被害が生じた。
- 4月 下道氏が町長に初当選
前町議会議員の下道英明氏が4選を目指した現職の真屋敏春氏を破り初当選。洞爺湖町では初となる民間出身の町長となった。
- 7月 湖畔に「TOYA」のモニュメント
洞爺湖温泉観光協会職員手作りの「TOYA」のロゴモニュメントが湖畔遊歩道に設置。現在も観光客らの撮影スポットとなっており、冬季はイルミネーショントンネルが人気を集める。
- 10月 箱根中学生とオンライン交流
コロナ禍のため訪問交流が制限されていることから、虻田中と洞爺中の生徒が姉妹町の箱根中学校の生徒とオンライン交流した。

▼写真説明

1. 初の民間出身の町長となった下道氏
2. 新たに設置されたモニュメント
3. オンライン交流する中学生
4. 2月に発生した大雪

$\frac{1}{3}$
 $\frac{2}{4}$

【その他のできごと】

- ・JAとうや湖青年部作成の動画CMがコンテストでJA北海道青年部最優秀賞
- ・UWクリーンレイク洞爺湖に前田一步園賞

令和5年

2023

考え続ける 火山との共生



- 1月 ゼロカーボンシティ宣言
2050年までの二酸化炭素排出実質ゼロに向け、ゼロカーボンシティ宣言を行い、行政・町民・事業者が一体となって取り組むことを決めた。
- 4月 西山火口散策路に新ルート
新しく整備されたのは旧国道230号を間近で見られる「旧国道ルート」。第1展望台の南側から第2展望台を結ぶ約300mのコースとなっている。
- 8月 成香自治会に神輿プレゼント
成香地区のレイクヴィラファームが生産した競走馬・グローリーヴェイズ号が2019年と21年に香港G1レースを制覇したことを記念し、成香自治会に神輿を寄贈。
- 9月 NHKと協力して噴火防災訓練
避難訓練には約250人が参加し、避難ルートや避難方法を確認。また、町とNHKによる地域ミーティングが行われ、災害時の行動などについて意見交換。

【その他のできごと】

- ・G7ゼロカーボンミーティングin洞爺湖開催
- ・洞爺湖有珠山ジオパークが世界ジオパーク再認定
- ・洞爺湖温泉地区の降水量が観測史上最大
- ・2023アジアベンチプレス大会開催



▼写真説明

1. G7ゼロカーボンミーティングin洞爺湖
2. 西山火口散策路の新ルート
3. 成香自治会に寄贈された神輿
4. 噴火防災訓練の地域ミーティング

$\frac{1}{3}$
 $\frac{2}{4}$



- 4月 三豊霊園合葬墓で受け入れ開始
市街地と内浦湾を望む三豊霊園内の一角に設置された合葬墓。750体の遺骨を受け入れ可能で、年15体を見込む。
- 7月 箱根町との姉妹提携が60周年
昭和39年の提携以来、中学生の相互訪問交流をはじめ災害時の応援交流など様々な交流を通し、友情を深めて60年を迎えた。
- 9月 ツーデーマーチの歴史に幕
惜しまれつつ37年の歴史の幕を閉じた北海道ツーデーマーチ。最後の大会には2日間で延べ1067人が参加。
- 10月 縄文シティサミットが開催
洞爺湖町の開催は15年ぶり2回目。全国18都市の首長らが縄文を通したネットワークづくりなどを議論した。

姉妹提携積み重ねて60年

令和6年

2024

【その他のできごと】

- ・旧洞青寮を「A」とうや湖に貸与
- ・洞爺国際交流協会 30 周年式典
- ・洞爺地区コミュニティタクシー・とうやコネクトタクシー運行開始
- ・能登半島地震が発生
- ・映画「しあわせのパン」再上映会

▼写真説明

1. 姉妹都市提携 60 周年記念式典
2. 三豊霊園の合葬墓
3. 縄文シティサミット
4. 北海道ツーデーマーチ

1
2 3 4



2月 ビジターセンター100万人

来館者 100 万人を達成した洞爺湖ビジターセンターには町の火山科学館も併設。洞爺湖の自然環境と有珠山噴火の歴史が学べる。

3月 噴火25年を迎え、火山防災を議論

火山の専門家や火山マイスター、自治防災組織などで活動する住民をパネリストに 2000 年噴火について意見を交わした。

4月 とうやコイン利用開始

公共施設の利用やイベント参加などで貯まり、町内だけで使えるデジタル通貨。プレミアム商品券などにも活用してキャッシュレス化を図っていく。

7月 三豊市と友好都市提携50周年

旧洞爺村が香川県財田町と1975年（昭和50年）に締結した友好都市提携から50年を迎えた。写真は記念品として三豊市から贈られた観光名所・父母ヶ浜の風景。

【その他のできごと】

- ・消防洞爺湖支署に大型水槽車 1 台配備
- ・財田米マップを作成
- ・ライドシェアタクシードライバーの募集開始
- ・初代町長の長崎良夫氏が逝去
- ・小中学生バレーボールチーム「洞爺湖イグナイト」結成

▼写真説明

1. とうやコインの利用風景
2. 有珠山噴火の議論
3. ビジターセンター100万人目の来館者
4. 三豊市から記念に贈られた写真

1 2 3
4

令和7年

2025

つないだ絆は次の時代へ



みんなの未来図

未来の洞爺湖町はどんなだろうー？

町内の小学校3校の児童に洞爺湖町の未来図を描いてもらいました。

低学年は「だいすき!」、中学年は「こんな公園があったらいいな!」、高学年は「未来の洞爺湖町」がテーマ。

どの作品にも子どもたちがこのまちで見つけた大切な気持ちが詰まっています。

応募のあった全238作品のうち各学年の最優秀作品、優秀作品の計12点を掲載します。

【最優秀作品】



低学年の部

作品名「空がにじのえんそく」
虻田小学校2年 野邊 実衣華さん
作品について
「にじのところをがんばりました」



中学年の部

作品名「しぜん公園」
とうや小学校3年 友田 皐月さん
作品について
「この公園はりすやとりなどをかんさつ、見ることができる公園で、ベンチやゆうぐ、水のみ場があります」



高学年の部

作品名「洞爺湖町の笑顔」
虻田小学校6年 田上 杏さん
作品について
「私は笑顔でみんなが仲が良いといいなと思いました。男女、とし、かんけいなく暮らせるのは大切だし、自然などを守っていくのも良い町作りにつながると思いました」



【優秀作品】



▲作品名
「すべり台公園」
虻田小学校4年 水崎 麗空さん
作品について
「すべり台は長いほうが楽しいので長いすべり台があったらいいと思います」



▲作品名
「洞爺湖町の未来」
とうや小学校6年 岩崎 葵さん
作品について
「洞爺湖町がもっと便利になった未来を描きました。様々なところに変化を作り、今とはちがうということを意識して描きました」



▲作品名
「30年後の自然」
虻田小学校5年 白川 月さん
作品について
「工夫したところは色をぬるときにいろいろ色をまぜたり、かさねてぬったりしたところやさくの色やたちを工夫しました」



▲作品名
「中島の水鏡」
とうや小学校5年 土肥 ひかるさん
作品について
「中島が湖に写っているのがきれいだったので絵に中島が写っているすがたをかきました。工夫したところは湖の色をグラデーションにしたところです」



▲作品名
「だいすき！あぶた読書の家」
虻田小学校2年 戸叶 怜志さん
作品について
「くふうしたところ：とくに本の色を考えた。みてほしいところ：本棚の左！時計の色（数字の）をアレンジしてみた」



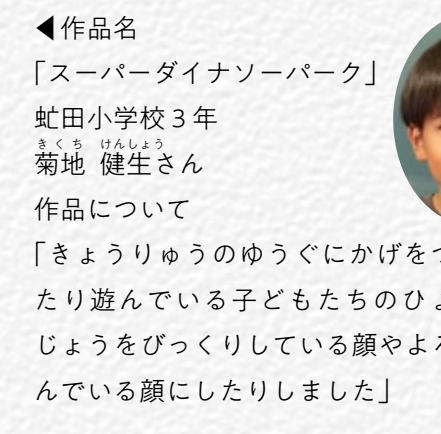
▲作品名
「きょうだいであそんだよ」
洞爺湖温泉小学校1年 木田 快晴さん
作品について
「ふんすいこうえんをかくのがたいへんだった。おひさまをかくのをがんばった」



◀作品名
「のらねこ」
虻田小学校2年 にしはら さくら
西原 早桜さん
作品について
「ねこの毛なみの色をがんばってつくりました」



▲作品名
「ペットレース場」
洞爺湖温泉小学校3年 さいき あやか
佐伯 彩花さん
作品について
「どう物がいっぱいいてレースをする楽しい公園です」



◀作品名
「スーパーダイナソパーク」
虻田小学校3年 きくち けんしょう
菊地 健生さん
作品について
「きょうりゅうのゆうぐにかげをつけたり遊んでいる子どもたちのひょうじょうをびっくりしている顔やよるこんでいる顔にしたりしました」

洞爺湖町の中学生が伝えたいコト

未来への メッセージ

▶ メッセージボードの内容

上段：10年後の自分へ

下段：10年後の洞爺湖町へ

これからを担う洞爺湖町の中学生は、将来のためにどんな想いを抱いているのでしょうか？
10年後の自分と町に向けて、メッセージを送ってもらいました！



洞爺中学校のみなさん

1	4	7
2	5	8
3	6	9

1. 寺田 尊さん (2年)
2. 大廣 栄輝さん (1年)
3. 橋本 依里さん (2年)
4. 佐藤 勘太郎さん (3年)
5. 佐藤 蕾雅さん (3年)
6. 中川 志恵さん (3年)
7. 白石 美濤さん (1年)
8. 二瓶 伽桜さん (3年)
9. 青山 風穂さん (2年)

虻田中学校のみなさん

左ページ

5	1	1. 高木 乙葉さん (3年)
	2	2. 矢野 絆さん (3年)
	3	3. 長谷川 瑛士さん (3年)
	4	4. 高梨 桃花さん (2年)
		5. 鈴木 瑠菜さん (3年)

右ページ

5	1	1. 白川 英弥さん (3年)
6	2	2. 毛利 琴音さん (3年)
7	3	3. 阿部 亜希香さん (1年)
	4	4. 三上 妃愛さん (2年)
		5. 遠藤 花音さん (3年)
		6. 白井 久蓮朱さん (2年)
		7. 星川 征輝さん (3年)
		8. 釣賀 怜和さん (3年)





地域おこし協力隊と考える このまちの未来

地域おこし協力隊とは？

地域の未来を応援するため都市部から移住して地域活性化に取り組む国の制度。任期は最長3年。町ではこれまで25人が隊員となり、2025年度は4人が活動中。退任後、町内で起業や就業し、定住している人もいます。

一番好きと言えるまち

一洞爺湖町に興味を持ったきっかけはなんですか？

亀田（智）さん 自然豊かな移住先を探していて、家族で条件を絞っていくと、洞爺湖町が一番条件に合っていました。

亀田（昇）さん 洞爺湖町を選ぶ時に特に重要だったのが、道内で比較的雪が少ない上、自然と利便性のバランスが良いことです。私はスノーボードが趣味でスキー場が近いのも魅力のひとつでした。



白澤さん 札幌に住んでいて、かねてより海がある町へ移住したいと思っていました。実家が室蘭市にあるので洞爺湖はよく訪れる場所。ツアーコンダクターの経験もあるのですが、お客様から好きな所を聞かれた際も一番

に「洞爺湖です」と答えていました。

成田さん キャンプで全道を回った時、洞爺湖町のロケーションや景観が一番と言って良いほど素晴らしかったです。以前は札幌に住んでいて雪の不便がありました。洞爺湖町は雪が少なく、考えていた条件と一致しました。

折原さん 15年ほど前に妻とドライブで訪れたのがきっかけです。妻に理由を聞くと、町内のあるパン屋に行きたいとのこと。実際に店を訪れ、洞爺湖を舞台にした映画を見たりして、こんな地域があったんだと初めて知りました。移住した人たちとも関わり、田舎に住むのも悪くないと考え始めました。

人との距離 近く感じる

一町で暮らして特に印象的なことは？以前住んでいた地域との違いをどのように感じていますか？

成田さん 町になじめるか不安でしたが、仕事で農家さんなどいろんな人と出会っていると、皆さんが受け入れてくれますし、人との距離感が近いと感じます。近所の家族が子どもと一緒に遊んでくれたり、物々交換のようなコミュニケーションや交流が多いのは

profile



折原 英明さん（司会）
2021年～24年、協力隊員で活動。現在は町内で飲食店を経営。



成田 譲さん
2023年からとうや水の駅で活動中。町内での起業に向けて奮闘中。



白澤 祐子さん
2024年からジオパーク推進室を経て健康福祉課で活動中。



亀田 昇吾さん・智子さん
町では初めて家族で地域おこし協力隊に加入。昇吾さんは町商工会、智子さんは社会教育課で活動しながら空き家対策に力を入れている。



前と変わったなと思います。

白澤さん 町営住宅に引っ越したのですが、ご近所さんやスーパーの店員さんが親切にしてくれるので、引っ越してきたその日にもう生活になじめた感じがするくらい、温かさを感じたことが第一印象でした。移住前は都会音が止まず、朝まで起こされずに寝たことがないほどでしたが、洞爺湖町に来ると睡眠の質が上がりました。

亀田（昇）さん 1年過ごしてみて、何よりもストレスが少なくなったと感じました。人が優しく、自然を感じながらゆったり生活できています。関東から移住してきたので、暑くなくて過ごしやすいで身体的なストレスもかなり減りました。

関東との大きな違いは降雪量および積雪量ですが、何事にも余裕があると感じます。移住前に暮らしていた環境は、例えば、人が密集し建物が建て詰まっていることによる空間的な余裕の無さ、時間的制約による精神的な余裕の無さなどがありました。

亀田（智）さん 皆さんもおっしゃっているように、人が優しくておらかだと思います。また、関東に住んでいたころよりも四季をはっきりと感じます。アクティビティや食べ物など四季折々の楽しみがあって、どの季節も楽しいと感じることができそうです。

折原さん 僕は「地域で子育てしている感」をとても感じます。洞爺湖町では近所の父母が顔見知り、小学校でもひとつの大家族のような雰囲気があります。あとは、洞爺湖町は場所が良いと思っています。田舎暮らしと言われると生活しづらいイメージがあ

りますが、町内には大きな病院があるし、もし何かあっても室蘭や札幌まですぐ行けるなど生活しやすい地域ではないかと思っています。

自然の恵みを食して

一洞爺湖町に住んでから好きになったことはありますか？

白澤さん 道の駅で私が知らなかった食材がたくさん売っていて、どう料理したらよいのかも店員さんが親切に教えてくれるので、自分で手を加える料理をするようになりました。とても大きなごぼうが売っていて驚いたので、きんぴらごぼうをたくさん作りました。私の腕でもとてもおいしくできました(笑)

亀田（智）さん 自然の恵みに触れる機会が増えました。登山や、栗やきのこ、山菜採りなどの楽しみ方を地元の方に教えていただきました。移住前の生活環境ではできなかったことです。

成田さん スノーシューを買って冬の洞爺湖を財田の方へ歩いているととても静かきれいです。また、料理も始めました。売店で働いているとお客さんから食材の料理法などを聞かれたり、教えてもらったりのので、いろんな料理にチャレンジしています。



自然と利便性のバランス

— 洞爺湖町の魅力・ポテンシャルをどこに感じていますか？

亀田（昇）さん 一番のポテンシャルは、自然が豊かでありながら生活が便利なところではないでしょうか。ただ、いろんな物が揃っている一方、「特にこれを押し出していく」ということが難しく、なかなか魅力が伝わりづらいのかなと思います。

折原さん 良い物があるけど、それをどう伝えていくかですね。地域おこし協力隊は情報発信について求められるので、そこは課題になりそうですね。

白澤さん 移住前は観光地としておすすめだと他の人に伝えていたのですが、住んでも良い町だと言えるようになりました。水産物や農産物、それを支える人の心も大切な資源です。全部ひっくるめて洞爺湖町は良い町だと伝えられるようになりました。

折原さん 先ほどツアーコンダクターのお話がありましたが、洞爺湖町のポテンシャルってどのように感じていましたか？

白澤さん 1週間に3回、ツアーのコースに入るほど頻繁に来ていたのですが、昭和祈山に行ってサイロ展望台で買い物して帰っちゃうんですよ。せめて1泊して、滞在時間を長くして楽しんでいただきたいと今でも思います。

亀田（智）さん 札幌や室蘭、伊達などの都市へのアクセス性が良く、生活に困らないというのはす

ごいポテンシャルだと思います。ですが、生活がしやすいということは意外と気づかれない魅力なのかもしれません。住む上ではかなり重要なポイントなので、日々の生活で困ることがなく住みやすいということはアピールポイントだと思います。

成田さん 近隣に比べると開発され過ぎていないと思います。昔の雰囲気が残りつつも豊かな暮らしがあって、まだまだ発展できる可能性を感じられる場所であると思います。

折原さん 洞爺湖町というひとつのくくりではあるけど、虻田、洞爺湖温泉、洞爺でそれぞれの特性があり、非常に魅力的な町なんじゃないかと感じますよね。

点在する魅力を結ぶもの

— 洞爺湖町の魅力・ポテンシャルをのばすには何が必要だと思いますか？

成田さん 移住者向けの家はないかとよく聞かれます。住む所の情報発信があまりないのでもう少し増えたらいいなと思います。

亀田（智）さん まずは皆さんがポテンシャルに気づくことだと思います。例えば、空き家も資源のひとつであり、どのように活用していくかを考えられると良いのかなと思います。

折原さん 地域おこし協力隊として初めて来たときに、役場の担当者から情報発信をしてほしいと言われました。湖や火山、野菜などの美点も長く住んでいると当たり前になってしまうようです。

亀田（昇）さん 地元の方々にも魅力を再発見してもらい、伝統を守りつつ、新しいところをもっと伸ばしていけると良いのかなと思います。移住してくるとき一番ネックだったのは住む場所と仕事です。移住者の希望する住居、仕事のマッチングができていないところがあるので、うまく移住者に見える化してつなげる必要があるのではないのでしょうか。

白澤さん 私は、点在している魅力を結ぶものが必要だと思います。やはり足がないと行動範囲が狭くなってしまい、住民もどこかでイベントをやってい

ても行けないことがほとんどだと思います。既存のコミュニティーバスやコネクトタクシーを有効に利用できると魅力アップにつながると思います。

まちのため 一緒にできること

— 10年後を見据えた時、地域づくりへの今後の関わり方をどう考えていますか？

亀田（昇）さん 家族で空き家対策に取り組んでいますが、空き家所有者の多くは空き家をどう処分または利活用していけば良いのかわからないのが現状だと感じてます。今まで建築・土木関係の仕事をしてきた経験を活かし、抽象的な悩みに具体的な方法を提案して支援できたらと思います。まちづくりは、一人でどうこうできず、地域に長く住んできた方々と移住者などが一体となって形作られていくものと思っています。現在、役場が町史の編さんを行っていますが、町ができた歴史や今の風景になった経緯などを住民の方々に理解してもらうことが重要だと思います。

亀田（智）さん 人が暮らしていくためには家や仕事が必要です。私も建築関係の仕事をしてきた経験を活かしながら、現在は空き家対策に取り組んでおり、今後も住まいづくりやまちづくりへの貢献を長

く続けたいです。今、町にある資源が素晴らしいので、町が変わっていくことを目指すというより、少子高齢化や人口減少などの問題がある中でも、今ある資源を活かしながらこの町の良さをずっと維持していけるのが良いのではと思います。

白澤さん 私は、健康で長生きする方法を同世代と考えるようになりました。私自身が洞爺湖町に来て睡眠の質が向上したり、ストレスも激減したので、元気に長生きするためのお手伝いができたらと思います。私たちは地域おこし協力隊という肩書をいただいているのでどこにでも行けますが、用事がなくても気軽に行ける場所があって、そこで世間話程度で悩みを聞き、専門家につなげるような役目を担い、洞爺湖町で暮らしたら元気になるよと皆さんに伝えていけたらと思っています。

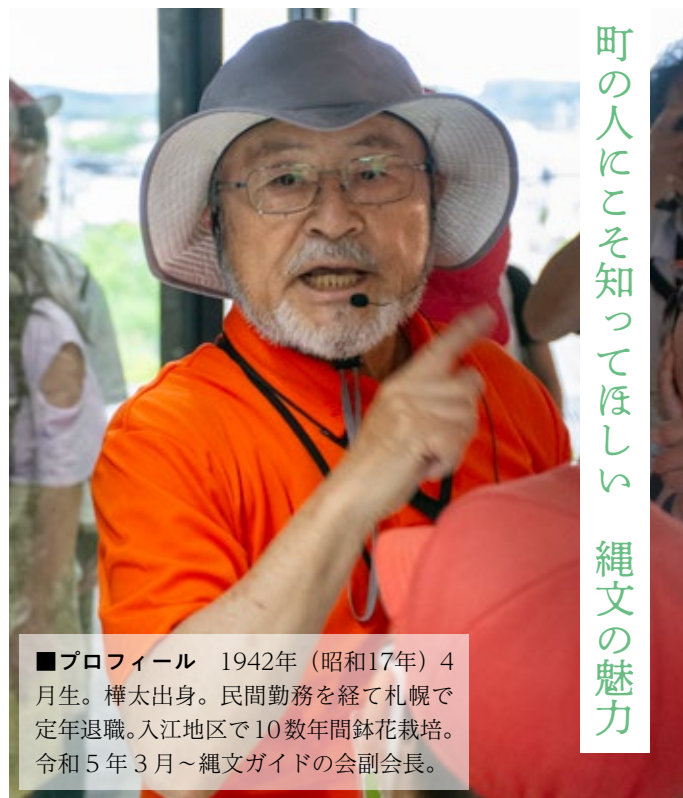
成田さん このまま住み続けたいですが、住み続けるとだんだん外からの目線が薄れてしまうかもしれません。町の良さを深掘りしつついろんな地域の成功例を見たり、意見交換をして、イベント企画や情報発信の力になれば良いなと思います。

折原さん 人口減少や高齢化、財政など問題はありますが、人口1万人を目指したら良いと思っています。1万人目指すとなれば、おのずと施策・政策がそれに向いてくるはずですが。僕たちは民間として下支えしながらできることも一生懸命やりたいと思っています。地域おこし協力隊での活動は3年で終わりますが、3年で町や僕たちの関係が切れるわけではないので、終わっても同じ地域に住みながら、一緒にいろんなことができたらいいいですね。



この町とともに

洞爺湖町の歴史は、町の人々の歴史。様々な分野で町を活気づけてくれている人たちに、これからのまちづくりについて語ってもらいました。



町の人にこそ知ってほしい
縄文の魅力

TOYAKO縄文ガイドの会副会長

さとう せつお
佐藤 節夫さん

ヒゲの風貌と豊富な縄文の知識から、ガイドを受けた人に「学者さんですか？」と言われることも…。「縄文とは無縁の人生でした。定年後にこの町に住み、5、6年前に散歩の途中で入江貝塚を見つけたのが縄文との出会い。こんな身近に遺跡があるのはすごい」と、すぐに「アプタ・フレナイの会」に入会し、「TOYAKO縄文ガイドの会」には設立時から参加しています。

「縄文時代の素晴らしさは多いですが、貝塚館にある2体の人骨レプリカだけでも縄文人の優しさと命への強い思いが分かります」と魅力を語ります。

ボランティアガイドが生きがいで、「今後も続けて一人でも多くに縄文を発信したい」と話す一方、「地元の人にもっと来てほしいし、一緒に活動したいですね」と地域で世界遺産を守り育てる機運の醸成に期待しています。

■プロフィール 1942年（昭和17年）4月生。樺太出身。民間勤務を経て札幌で定年退職。入江地区で10数年間鉢花栽培。令和5年3月～縄文ガイドの会副会長。

この町とともに



村が残した文化の足跡を未来へ

洞爺湖芸術館友の会副会長

あらい ともこ
新井 知子さん

「小さくても文化を、ここでしかできないことをやっていきたいです」。住んでいた札幌から通いながら段々と魅了されていた洞爺地区。同じ移住者の心の支えになっていると感じたのが芸術館でした。何度も訪れるきっかけになったのは、館内に収蔵されている砂澤ビッキの作品との出会い。そして、ピエンナーレなど洞爺村の芸術への取組でした。

「今だと実現できないことをやっていたのが興味深いです。ピエンナーレのテーマとなっている『手のひらの宇宙』は、いくつもの願いや人間の可能性をはらんでいると思います。人の手や暮らしや芸術・平和をもたらすために使われたらと願うばかりです。当時の村長の言葉にもとても惹かれます。先人がやってきたことを調査して発信してみたいです」。村が残した確かな足跡を、町の文化に生かそうと考えています。

■プロフィール 1981年（昭和56年）2月生。札幌出身。2015年、洞爺湖町に移住し、洞爺町で雑貨店を営む傍ら、令和2年ごろから洞爺湖芸術館友の会で活動。

Re:TOYAプロジェクト

しおのや えみ
塩野谷 絵美さん

洞爺湖周辺の60以上の店を巻き込んだ「ザ・マップ・マイフットプリント・アラウンド・レイクトーヤ」を作ったのは、コロナ禍で観光が大打撃を受けた2021年。「近隣から洞爺湖に来てもらえないか考えました。地元近郊の人が自分なりの洞爺湖の楽しみ方をつくれれば、一過性ではない活性化につながるのではないかと」と振り返ります。

ザ・マップは、加盟店にある計60個のスタンプを自由に集め、オリジナルマップを作成。なじみの店ができたユーザーも多く「コロナ禍だからこそ、訪れる人と迎える人の相互交流を楽しんでもらいたかったです」と話します。ザ・マップは、SNSなどで広がり、2025年4月には達成者が100人に到達。「未来を見据えてビジョンを持ち、この土地の本来の魅力を再認識してもらえたら」と、様々な角度から町のことを伝える方法を考えています。



自分でつくる
洞爺湖の楽しみ方

■プロフィール 1979年（昭和54年）11月生。洞爺湖町出身。大学卒業後、民間勤務を経て平成21年、洞爺湖温泉でホリデーマーケットトーヤを開業。

いぶり噴火湾漁協虻田地区青年部長

あかま しょういち
赤間 将一さん

今年2月、洞爺駅近くに100人以上の人だかりができました。お目当ては虻田の前浜で獲れたばかりのホタテの直売会。1ヶ分のホタテが詰まった約300袋は開始から20分足らずで売り切れる人気ぶり。その後、洞爺地区、再び虻田地区と計3回開催し、いずれも完売。大成功に終わりました。

ホタテが名産なのに地元であまり流通していないことに、自ら海に出ながらも疑問が消えませんでした。今回の直売会は「顔が見えなかった消費者を知るきっかけになりました」と振り返ります。

地域振興や漁業のPRは青年部の仕事で、今回の直売会は青年部としては初の試み。地元からはさっそく「またやるんですか」との声が届いています。「地元に住んでこう言ってもらえるのはうれしかった。責任を持って育てていこうと思います」と意気込んでいます。



地元だからこそ届けたい
故郷の海の恵み

■プロフィール 1984年（昭和59年）10月生。洞爺湖町出身。2016年4月から漁師になり、ホタテ養殖などに携わる。令和6年、いぶり噴火湾漁協青年部長に就任。

この町とともに



みんなの口に届けたい
自慢の野菜

町内の最年少農家

いさい いぶき
以西 生芽さん

実家が営む「いさいファーム」で、農家一筋で働くようになって一年。じゃがいもやビートなどの栽培に携わり、特に大根は「うちが一番おいしいです」と胸を張ります。

中学生の頃、収穫作業の手伝いや野菜の販売を喜んでもらったことをきっかけに、農業科がある高校に進学。実家の農業を継ぐことを決意しました。専従で働く中、手伝いだけでは分からなかった大変さを体感していますが「毎日野菜を見て生育の早さを実感できるのは楽しいです」と目を輝かせます。

現在はJ Aとうや湖青年部に仲間入りし、イベント販売などで地元野菜をアピールしたいと意気込んでいます。実家で取り組んできた農薬の削減も学んでいき「これからも美味しい洞爺の野菜を作るのでぜひ食べてほしいです」と話しています。

■プロフィール 2005年（平成17年）5月生。洞爺湖町出身。高校卒業後、滝川市の農業関連施設で研修を受け、令和6年10月から実家の農家で農業に専従。

洞爺湖町自治会連合会会長

みやた としお
宮田 敏夫さん

町内41の単位自治会で組織する洞爺湖町自治会連合会。5月に新会長に選任され、地域コミュニティ活動の牽引役の重責を担っています。

農業を営みながら、町議会議員やとうや湖農協の組合長の経験から得た知見はその人柄に現れ、大勢が信頼を寄せています。「役員の協力を得ながら従来の事業を継承しますが、特に研修活動に力を入れます」と抱負を語ります。

各自治会は「組織の小規模化」、「加入率の低下」、など厳しい状況にあります。「自治会活動に協力的な人とそうでない人がいます。考え方の違いは仕方ないけど、同じ地域に住むのも何かの縁…。お互いが助け合える町になるといいよね」と話します。また、災害時の助け合いについて「6月に海岸沿いの自治会が共同で防災学習会を実施したのはいいことだね」と自治会間のさらなる連携に期待しています。



住民自治の未来は町民の助け合いに

■プロフィール 1949年（昭和24年）3月生。町議会議員を平成15年から12年間。とうや湖農協組合長を平成28年から2年間。令和2年～青葉2区自治会長。令和7年5月～洞爺湖町自治会連合会会長。

この町とともに



町が誇る祭典を成功に導く

TOYAKOマンガ・アニメフェスタ

おかだ しんぺい
実行委員長 岡田 晋平さん

町を代表するイベントに育った「アニフェス」。「まさか自分になるとは思いませんでした」と実行委員長就任時の思い出を振り返ります。

当初はクロークの作業の手伝いでアニフェスに関わりました。コスプレイヤーのこだわりが詰まった衣装を預かりながら舞台裏でイベントを支え、2代目の委員長に就任。打ち合わせや出演者との調整に追われ「頭のどこかに年中アニフェスがあり、プレッシャーも感じます」と苦労は絶えませんが、成功に全力を注ぎます。

アニフェスが長く続いている理由として「参加者とスタッフの熱意が高く、まちの人たちが受け入れてくれていることが大きいと思います」と周囲の支えを挙げます。関わってくれている人たちへの感謝を胸に、地元・洞爺湖温泉が誇る祭典を守っていくつもりです。

■プロフィール 1970年（昭和45年）7月生。洞爺湖町出身。洞爺湖温泉で岡田屋の経営に携わる傍ら、令和2年より実行委員長に就任。

洞爺湖有珠火山マイスター

かのまた
鹿俣 ともよさん

町に移り住む前は京都の旅行会社に勤務。オーバーツーリズムの影響に疲弊する人も少なくない中、喜ばれたのは工房の見学など体験型ツアーでした。「地元に関わり、人と絡む体験を手助けしたいと考えるようになりました」と語ります。

町に移住し、町を知る中で、洞爺湖に代表される豊かな自然の成り立ちと火山活動が切り離せないことを知りました。その後、外国語で外国人を旅行案内するための国家資格・通訳案内士に合格し、さらに洞爺湖有珠火山マイスターの資格も取得。「旅程にストーリーを組み込み、知的好奇心を満たせる一貫性のあるツアーを提案したいです」と意気込みます。恵みをもたらす一方、大きな爪痕を残した有珠山噴火。「表面的な案内だけではなく、噴火の仕組みも伝えられるようにしたいですね」とその深奥を学び続けています。



火山の恵みと脅威を伝えるために

■プロフィール 1988年（昭和63年）9月生。埼玉出身。旅行会社勤務を経て、2023年に通訳案内士に合格。翌24年に洞爺湖有珠火山マイスターの資格を得て活動中。

この町とともに



■プロフィール 1983年(昭和58年)9月生。室蘭出身。令和2年、洞爺湖温泉でミトンピザを開業。クラウドファンディングでキッチンカーを導入し、子育て支援にも注力。

チャレンジショップ制度で開業

まつばら
松原 あきなさん

自らDIYで改装したキッチンカーを走らせ、香ばしい匂いが漂うピザを届けています。もともと飲食業には縁がなく、子育てに忙しい生活を送っていました。時に苦勞も絶えない中、同じ子育てママの居場所をつくりたいと一念発起。「一緒に食べたり、分け与えたり、親子で食べやすいのがピザ」と考え、ピザ店の開業を決意しました。

営業を始めようとした時はコロナ禍の真っただ中。そこで町が実施するチャレンジショップ支援事業補助金を利用。「開業して1、2年目を勇気をもって過ごすことができました」と振り返ります。キッチンカーを使って小学生の職業体験にも協力。仕事で人に喜びを届ける経験を生み出しています。今後は、ピザ作りのワークショップや子どもたちの起業家教育など活動を広げながら「誰かの一歩を応援できるように進化したいです」と夢を描きます。

洞爺湖アイヌ協会会長

ふじの みつひろ
藤野 満裕さん

静寂の中、囲炉裏に立つイナウ(木幣)に向かい、祭司の祈りの言葉がアイヌ語で語られます。7月にウトウラノで洞爺湖アイヌ協会主催の「チセノミ・カムイノミ・イチャルパ」儀式が執り行われました。

副祭司を務めた藤野会長は「この儀式が終わるとホッとするね。祭司ができたらいけど、普段はアイヌ語を使わないので祈りの長い言葉をなかなか覚えられないし、儀式の作法も結構難しいんだよね」と、少し悔しそうに話します。

洞爺湖町アイヌ民族共生拠点施設「ウトウラノ」が完成して5年。コーディネーターを中心にアイヌ模様の刺繍やお盆づくりの教室などを定期的の実施し、参加者に好評です。「会員減少、後継者不足の問題はあるけどアイヌにこだわらず、一般の人も参加しやすい仕組みを考えて、地域全体でアイヌ文化を伝えていきたい」と目標を話してくれました。



■プロフィール 1960年(昭和35年)11月生。旧虻田町生まれ。高校卒業後病気の父親の跡を継いで漁業に従事。平成30年4月～洞爺湖アイヌ協会会長。

他市町との交流

姉妹都市 神奈川県箱根町

提携の経緯

箱根町の「芦ノ湖と富士山」と旧虻田町の「洞爺湖と羊蹄山」の景色が非常に似ており、両町とも観光が中心の町である上、それぞれが富士箱根伊豆国立公園、支笏洞爺国立公園に属しているという共通点があります。

1964年(昭和39年)に姉妹町の盟約を結びました。2006年(平成18年)の洞爺湖町開町式の際にあらためて姉妹都市宣誓書を交わしました。

箱根町の概要

箱根は高原、森林、河川、湖など多様な自然豊かな環境と首都圏から近い距離にあることから、年間約2千万人が訪れる日本有数の観光地です。観光施設も多くあり、湯本、強羅、仙石原などの17の温泉地が点在しています。

- ・面積 92.86 平方km
- ・人口 10,816 人(世帯数 6,530 世帯)
(2025年4月1日時点)



やすらぎとおもてなしのあふれる町ー箱根

(第6次総合計画より)



友好都市 香川県三豊市

提携の経緯

1887年(明治20年)に洞爺地区に入植した人々の出身地の一つが旧財田町であることから、姉妹町村の盟約を結ぶことになりました。締結は1975年(昭和50年)に電話により行われました。2006年(平成18年)に双方が合併したことに伴い、合併前の交流を引き継ぐことで合意し、2007年(平成19年)に洞爺湖町で友好都市提携の盟約書に調印しました。

三豊市の概要

穏やかな瀬戸内海と里山に囲まれ、紫雲^{しうで}山^{やま}をはじめ市内各所に桜の名所があります。みかん、オリーブ、ぶどうなどのフルーツや野菜、花き栽培などの農業が盛んな一方、製造業も中心産業で国際貿易港詫間港を有する工業のまちでもあります。

- ・面積 222.7 平方km
- ・人口 60,093 人(世帯数 26,422 世帯)
(2025年4月1日時点)



One MITOYO ～心つながる豊かさ実感都市

(第2次総合計画より)





旧洞爺村章



旧虻田町章

洞爺湖町誕生20周年記念誌

編集・発行 洞爺湖町

発行年月 2025年(令和7年)11月